



■公益財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961  
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 「ながさき平和の日」関連写真、長崎平和宣言
- 被爆70年ナガサキ原爆写真展
- 海外原爆展開会式報告
- 「長崎国際平和映画フォーラム2015」開催のお知らせ
- 「市民のつどい」開催のお知らせ
- 「第6期生平和案内人」募集のお知らせ
- TOPICS! (被爆70年記念事業 姜尚中(カン・サンジュン)氏講演会開催のお知らせ ほか)



被爆70年ナガサキ原爆写真展の様子 (2015年7月22日～8月3日 長崎市立図書館多目的ホール)

# 被爆70周年

平成27年8月9日、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典には70年前の悲劇を再び繰り返さないことを誓い、たくさんの方々が参列しました。



平和の灯



朗読 永遠の会「数行の思い出」



長崎市役所二胡愛好会による演奏



平和への誓い  
被爆者代表 谷口 稜暉氏

被爆70周年の節目を迎える今年、長崎の各地で様々な追悼のイベントが行われました。原爆犠牲者への追悼、核兵器の廃絶、平和な世界の実現を願う祈りに長崎の街が包まれました。長崎が最後の被爆地となりますように・・・



ピーススペース (紙芝居と絵本の催し)



キッズゲルニカ大会 in ながさき

# 平成 27 年 長崎平和宣言

昭和 20 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分、一発の原子爆弾により、長崎の街は一瞬で廃墟と化しました。

大量の放射線が人々の体をつらぬき、想像を絶する熱線と爆風が街を襲いました。24 万人の市民のうち、7 万 4 千人が亡くなり、7 万 5 千人が傷つきました。70 年は草木も生えない、といわれた廃墟の浦上の丘は今、こうして緑に囲まれています。しかし、放射線に体を蝕まれ、後障害に苦しみ続けている被爆者は、あの日のことを 1 日たりとも忘れることはできません。

原子爆弾は戦争の中で生まれました。そして、戦争の中で使われました。

原子爆弾の凄まじい破壊力を身をもって知った被爆者は、核兵器は存在してはならない、そして二度と戦争をしてはならないと深く、強く、心に刻みしました。日本国憲法における平和の理念は、こうした辛く厳しい経験と戦争の反省の中から生まれ、戦後、我が国は平和国家としての道を歩んできました。長崎にとっても、日本にとっても、戦争をしないという平和の理念は永久に変えてはならない原点です。

今、戦後に生まれた世代が国民の多くを占めるようになり、戦争の記憶が私たちの社会から急速に失われつつあります。長崎や広島に被爆体験だけでなく、東京をはじめ多くの街を破壊した空襲、沖縄戦、そしてアジアの多くの人々を苦しめた悲惨な戦争の記憶を忘れてはなりません。

70 年を経た今、私たちに必要なことは、その記憶を語り継いでいくことです。

原爆や戦争を体験した日本、そして世界の皆さん、記憶を風化させないためにも、その経験を語ってください。

若い世代の皆さん、過去の話だと切り捨てずに、未来のあなたの身に起こるかもしれない話だからこそ伝えようとする、平和への思いをしっかりと受け止めてください。「私だったらどうするだろう」と想像してみてください。そして、「平和のために、私にできることは何だろう」と考えてみてください。若い世代の皆さんは、国境を越えて新しい関係を築いていく力を持っています。

世界の皆さん、戦争と核兵器のない世界を実現するための最も大きな力は私たち一人ひとりの中にあります。戦争の話に耳を傾け、核兵器廃絶の署名に賛同し、原爆展に足を運ぶといった一人ひとりの活動も、集まれば大きな力になります。長崎では、被爆二世、三世をはじめ、次の世代が思いを受け継ぎ、動き始めています。

私たち一人ひとりの力こそが、戦争と核兵器のない世界を実現する最大の力です。市民社会の力は、政府を動かし、世界を動かす力なのです。

今年 5 月、核不拡散条約（NPT）再検討会議は、最終文書を採択できないまま閉幕しました。しかし、最終文書案には、核兵器を禁止しようとする国々の努力により、核軍縮について一歩踏み込んだ内容も盛り込むことができました。

NPT加盟国の首脳に訴えます。

今回の再検討会議を決して無駄にしないでください。国連総会などあらゆる機会に、核兵器禁止条約など法的枠組みを議論する努力を続けてください。

また、会議では被爆地訪問の重要性が、多くの国々に共有されました。

改めて、長崎から呼びかけます。

オバマ大統領、そして核保有国をはじめ各国首脳の皆さん、世界中の皆さん、70 年前、原子雲の下で何があったのか、長崎や広島を訪れて確かめてください。被爆者が、単なる被害者としてではなく、「人類の一員」として、今も懸命に伝えようとしていることを感じてください。

日本政府に訴えます。

国の安全保障は、核抑止力に頼らない方法を検討してください。アメリカ、日本、韓国、中国など多くの国の研究者が提案しているように、北東アジア非核兵器地帯の設立によって、それは可能です。未来を見据え、「核の傘」から「非核の傘」への転換について、ぜひ検討してください。

この夏、長崎では世界の 122 の国や地域の子どもたちが、平和について考え、話し合う、「世界こども平和会議」を開きました。

11 月には、長崎で初めての「バグウォッシュ会議世界大会」が開かれます。核兵器の恐ろしさを知ったアインシュタインの訴えから始まったこの会議には、世界の科学者が集まり、核兵器の問題を語り合い、平和のメッセージを長崎から世界に発信します。

「ピース・フロム・ナガサキ」。平和は長崎から。私たちはこの言葉を大切に守りながら、平和の種を蒔き続けます。

また、東日本大震災から 4 年が過ぎても、原発事故の影響で苦しんでいる福島の人々を、長崎はこれからも応援し続けます。

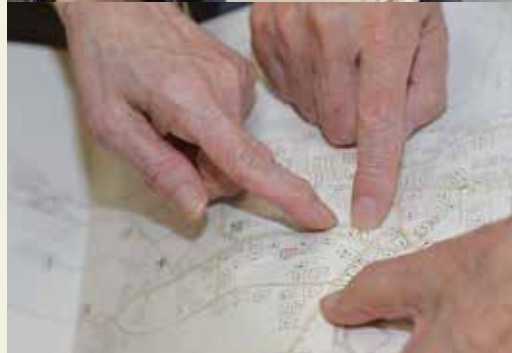
現在、国会では、国の安全保障のあり方を決める法案の審議が行われています。70 年前に心に刻んだ誓いが、日本国憲法の平和の理念が、今揺らいでいるのではないかという不安と懸念が広がっています。政府と国会には、この不安と懸念の声に耳を傾け、英知を結集し、慎重で真摯な審議を行うことを求めます。

被爆者の平均年齢は今年 80 歳を超えました。日本政府には、国の責任において、被爆者の実態に即した援護の充実と被爆体験者が生きているうちの被爆地域拡大を強く要望します。

原子爆弾により亡くなられた方々に追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は広島とともに、核兵器のない世界と平和の実現に向けて、全力を尽くし続けることを、ここに宣言します。

2015 年（平成 27 年）  
8 月 9 日  
長崎市長 田上 富久





## 被爆70年ナガサキ原爆写真展

### 大反響の中で開催

7月22日～8月3日、10年ぶりの大規模な原爆写真展「被爆70年ナガサキ原爆写真展」を新興善国民学校の跡地である長崎市立図書館の多目的ホールで開催した。写真はおよそ130点を展示。会場入り口には、長崎原爆ファットマンの大型写真（原寸大の1/2サイズ）を展示した。これにまず来場者は圧倒されたようだ。次のコーナーに回ると、爆心地を中心に2キロにわたって廃墟となった浦上一帯の、幅54メートルの大型パネル写真を制作し、展示した。長崎市立図書館が会場だけに、今まであまり展示することがなかった長崎市中心部の被害状況や、アメリカ国立公文書館収集の初公開の被爆写真も厳選して展示したことで、来場者の興味を引くことができたようだ。

10年前、写真資料調査部会は長崎市民会館で「被爆60年ナガサキ原爆写真展」を開催した。会場に展示した写真はおよそ230点だった。展示写真選定にあたり当時の部会員、吉山秀子さん（平成20年没）は「堀田君、私が勤務していた三菱製鋼所は絶対外

### ～ 写真展での感想の一部を紹介します ～

何と書けば良いのか言葉が見つかりません。痛々しいとしか、この様な写真展を日本各地でやって頂きたいと思います。

せんそうはこわいものとゆうことがもっと分かりました。なのでせんそうは二度おこらないでほしいです。ファットマンのこわさがよくわかりました。だからみんなにせんそうはしてわいけい。とつたえたいです。

再びこの様な事を繰り返さないで！と良く耳にするが正しく実感しました。

一般人である長崎市民が、なぜあのように傷つき、殺されなければならなかったのか。原爆は人を殺す残虐な兵器だということが良く解りました。一日も早く核兵器を、地球上からなくさなければと思います。

頭が白くなるような気持がした。何と云うか胸がいっぱいになった。本当に怖い。戦争をしてはならない。

本当にせんそうはこわくて、たくさんの方がなくなって、もうぜったいにせんそうはしたくないと思いました。みんななかよく平和にしたいです。ごはんをたいせつにします。

父がよく言っていたその時の松山橋から見た自宅のようす。今日写真展を見て言葉に言いあわせない思いです。父のつらさが・・・本当に辛かったんですね。写真で伝えることは大きいです。ありがとうございます。父の思いを私もつなげます。

原爆の悲惨さを改めて感じ、涙が止まりませんでした。今日感じたことを子供達に伝えていかなければと思いました。



「したらいかんよ」、室園久信さん（平成23年没）も「私が働いていた三菱造船所はたくさん展示して」、そして写真資料調査部会を引退された堺屋修一さんからはベニヤ板貼りのパノラマ写真を丁寧に作り上げていただいた。堺屋修一さんが苦労されたパノラマ写真制作は、パソコンの性能向上により、かつての苦労はなくなったが、10年前は大変な作業であった。写真展開催にあたり案内はがきを制作した。はがきを手にした友人からお礼状が来た。「あまりの悲惨さに言葉を失った。あの方たちの犠牲のもとに私たちは今、何不自由ない生活を送っているのですね。写真展は世界中の人々に見て欲しいと思います」としたためられていた。

今回の原爆写真展への市民の関心は非常に高かったようで、総計約3600人、1日約300人もの方々が訪れてくださった。来場者の中には、涙を流しながら写真を見ておられる方、航空写真等で自分が昔住んでいた場所を確認しながら70年前を思い出して、被爆体験を語ってくれた方、一度で見ることができないと何度も足を運んでくれた方も多かった。また、会場を長崎市立図書館にしたことにより、浦上方面で開催した際には足を運ぶことはなかった方々が来てくれたようだ。被爆70年の今年、多くの方々に原爆の強力な破壊力と非人道性、そして戦争の悲惨さを実感していただけたのではないだろうか。最後に（公財）長崎平和推進協会の皆さま、長崎市立図書館の皆さま、ご協力ありがとうございました。

写真資料調査部会員の一人として、次は長崎市近郊の中学校での写真展を再開したいと考えています。

（写真資料調査部会副部長 堀田武弘）

姉妹都市

米国・セントポール市で原爆展を開催

8月22日、長崎市の姉妹都市である米国・セントポール市で国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館主催のヒロシマ・ナガサキ原爆展が始まりました。

セントポール市のコールマン市長、岩藤在シカゴ総領事、田上長崎市長、毎熊長崎市長会議議長など、ご来賓をお迎えし、オープニングセレモニーを開催いたしました。

セントポール市長崎姉妹都市委員会の皆さまやセントポール市民の皆さまなど約200人が参加し、盛大に執り行われました。長崎の子どもたちは、故吉田勝二さんの「私たちが伝える被爆体験」の紙芝居を英語で演じ、来場した方々に平和の大切さを伝えました。会場の折り鶴コーナーでは、来場した方と一緒に平和への願いを込めて鶴を折りました。

また、メッセージやアンケートを書くコーナーも用意しています。メッセージの中には、「戦争によって引き起こされた深い傷と苦しみを伝える展示を通して、核爆弾が引き起こした結果を知りました。このような地獄が、二度と地球で繰り返されませんように」などの感想が述べられていました。

原爆展は、11月28日まで行われます。9月には協会継承部会員の原田美智子さんが被爆体験を語るためにセントポールを訪れます。一人でも多くの方に被爆の実相を伝えていただきたいと思います。



開会式の様子（セントポール市ランドマークセンター）



原爆展会場

# 被爆 70 年記念事業 長崎国際平和映画フォーラム 2015

**入場無料!!**

2015年11月6日(金)～11月8日(日)

【長崎原爆資料館ホール】

- 映画上映 「原爆の子」  
「二重被爆～語り部・山口疆の遺言」  
「黒い雨」など
- 朗読劇 高校生による朗読劇「原子雲の下に生きて」  
無名塾俳優をゲストに迎えた永遠の会朗読劇、  
無名塾俳優による朗読劇「原子野に生きる」など

【国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ】

- 報道写真家 浜口タカシ写真展
- 元長崎放送記者船山忠弘さんを迎えてのトークセッション
- 小ヶ倉中学校による朗読劇「二重被爆」



「長崎国際平和映画フォーラム」(主催:長崎原爆死没者追悼平和祈念館)は今年で6回目を迎えます。今回は被爆70年ということで、朗読劇や写真展も同時開催します。被爆70年を迎えた今年、被爆の継承について、あらためて考えるきっかけとなることを願っています。ぜひご来場ください。

★一部変更となる場合があります。  
時間等決定次第ホームページ等でご案内します。

【問い合わせ先】 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 095-814-0055  
<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

**NAGASAKI INTERNATIONAL PEACE FILM FORUM 2015**



戦時食コーナー



綿菓子・ポップコーンコーナー



エコ風船コーナー



折り鶴コーナー



**国連軍縮週間関連イベント  
「市民のつどい」を開催します!!**

当協会では国連軍縮週間(10月24日～30日)に合わせて恒例の「市民のつどい」を開催します。どなたでも気軽に参加できて、楽しめるイベントです。お気軽にご来場ください。

とき 平成27年10月24日(土) 10時～13時  
ところ 長崎原爆資料館 階段下広場

戦時食コーナー、ナガサキ原爆写真展、ミニコンサート、折り鶴コーナー、エコ風船コーナー、綿菓子・ポップコーンコーナーが無料で楽しみいただけます。



被爆  
70年

# 第6期生 平和案内人を募集します

長崎に原子爆弾が投下されて70年の月日が経過し、被爆者の平均年齢は80歳を超え、被爆の惨状を語ることができる方々が少なくなっています。

平成17年度から活動を開始した「平和案内人派遣事業」も、今年で11年目を迎えました。「平和案内人」は、原爆や平和に対する理解を深め、被爆の実相と平和の尊さを伝えることを目的に活動しています。

これまでに5期の育成講座を実施し、現在159人が長崎原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、被爆建造物等のボランティアガイドを行っています。

12月から始める育成講座では、被爆体験講話を通して被爆者の心の痛みを感じ取るとともに、原子爆弾の構造や当時の状況、現代の核問題など専門家から学ぶほか、実際に原爆資料館等をめぐり、ガイドに必要な知識を習得します。

原爆の恐ろしさや平和への思いを多くの人に伝えるために、「平和案内人」として一緒に活動しませんか。この機会にぜひご応募ください。

近年の案内実績

年度	利用者数
平成22年度	28,836人
平成23年度	32,140人
平成24年度	32,201人
平成25年度	31,527人
平成26年度	29,832人



## ～先輩平和案内人の声～

- 平和の輪を広げ、次世代へ伝えていくためには、このような地道な活動の積み重ねが、有効な手段であると思います。
- 講座内容はとても深く、これまで知らなかったことを多く学ぶことができました。ガイドをすることは難しいと思いますが、成長していきたいと思っています。

## — 育成講座の内容 —

講座期間 平成27年12月5日(土)～平成28年3月8日(火)の火曜日・土曜日・祝日  
 講座時間 火曜日 18:30～20:00 土曜日・祝日 13:30～16:30(原則)  
 ※詳細はチラシ、当協会ホームページをご覧ください  
 講座回数 全15回(予定)  
 ※12回以上出席した方のみ修了生として平和案内人に登録できます。  
 場 所 長崎原爆資料館 平和学習室ほか(長崎市平野町7番8号)  
 応募資格 満18歳以上(高校生は除く)で、平成28年5月からの平和案内人活動(ボランティアガイド)に参加できる方。

## — 申込要領 —

申込方法 申込用紙(チラシ裏面)に必要事項をご記入の上、郵便またはFAXでお送りください。  
 申込締切 平成27年11月9日(月)必着 ※申込用紙は協会ホームページからダウンロードできます。  
 ホームページ <http://www.peace-wing-n.or.jp>



被爆 70 年記念事業

## 姜尚中 (カン・サンジュン) 氏 講演会 「ナガサキ」と「フクシマ」の間 核なき世界を求めて

### 【プロフィール】

1950 年、熊本県熊本市生まれ。国際基督教大学準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授、聖学院大学学長などを経て、現在東京大学名誉教授。専攻は政治学、政治思想史。テレビ・新聞・雑誌などで幅広く活躍。主な著書に「姜尚中の政治学入門」、「悩む力」、小説「母 - オモニ -」、「心」を刊行。最新刊は「悪の力」。

### — 開催日時・応募方法 —

と き：平成27年12月13日(日) 開場13時30分 開演14時00分 (終演予定15時30分)

と ころ：長崎市平和会館ホール (長崎市平野町7-8)

入 場 料：無料 (郵便はがきによる応募が必要です)

応募方法：郵便はがきに「郵便番号」「住所」「氏名」「電話番号」および当協会会員の方は **会員** と朱書きし、下記のあて先までお申し込みください。

〒 852-8117 長崎市平野町 7-8 (公財)長崎平和推進協会「講演会」係

\* はがき 1 枚につき 1 人の応募となります。協会会員の方に限り 1 枚で 2 人まで応募できます。協会会員で 2 人応募する場合は「2 人希望」とお書きください。

応募締切：平成 27 年 11 月 13 日 (金) 当日消印有効

(応募者多数の場合は会員優先のうえ抽選となります)

### 世界の核弾頭の数 (2015年6月1日現在)

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~7,500	~7,200	300	250	215	80	100~120	90~110	<10	~15,700

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

### 会員数報告

- ◎ 維持会員 1,084 人
  - ◎ 賛助会員 143 人
  - ◎ 学生会員 12 人
- (平成27年9月1日現在)

### 寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎ 森 マサエ (敬称略) 七十万円
- ◎ 山賀 健太郎 五十万円
- ◎ 宮原 清子 十万円
- ◎ 船山 忠弘 十万円
- ◎ 木下 セツ 二万円
- ◎ 吉田 照枝 二万円
- ◎ 北城 祐二 一万五千元
- ◎ 川原 竹一 二千元
- ◎ 匿名 二万円
- ◎ 匿名 二千元

### 会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。今年度まだ会費を納めていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

本紙は再生紙を使用しています。平成二十七年九月三十日発行  
印刷 株式会社 藤木博英社

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。